

Title	福沢書翰の新資料(明治二十年二月二日付,中村宛)
Sub Title	
Author	会田, 倉吉(Aida, Kurakichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1967
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.40, No.1 (1967. 7) ,p.86- 86
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19670700-0086

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

福沢書翰の新資料（明治二十年二月一日付、）
（中村宛）

昭和四十年六月二十六日に文学部教授佐原六郎氏を通じて、熱海市在住の福島康裕氏から「明治功臣尺牘」と題する一巻をお借りしたことがある。三条実美以下明治の功臣十名の書翰計十通をあつめて一巻としたもので、その最後に、ここに紹介する福沢諭吉の書翰一通があつた。

文中の「彦次郎」は福沢の甥中上川彦次郎をいい、「中村貞」は同じく福沢の長女里の嫁いだ相手であつて、はじめは慶應義塾に学んだが、のち工学士となり、工学院大学の前身である工手学校の校長をつとめたりした中村貞吉である。また、「ガンカツツン」は gun-cotton(綿火薬)のことであり、「シキュー・トカツーワン」は同義のオランダ語 Schietkatoen である。

ただ、宛名は「中村」とのみではつきりしないが、福沢と親交のあつた中村道太ではないかと思われる。それから「ドクトル」とあるのも、それだけではいかにも不詳であるが、あるいはこれも福沢とは親交のあつかったアメリカ人シモンズ (Duane

B. Simmons) のことかと察しられる。シモンズを「ドクトル・シモンズ」とか、単に「ドクトル」とか呼んでいる例がしばしば見られるのである。さらに、「新町之事」とあるのはいつたいなんのことなのか、遺憾ながらいまのところ明らかでない。

一昨日ハ拝話大慶奉存候其節申上候新町之事ハ可相成丈ケ速ニ彦次郎へ御通知奉願候

ガソカツツン(シキュートカツーワン)之薬量中村貞へ尋

候處破裂ニ用るものハ硫酸と硝酸と容量ニ而等分と申事ニ

御座候

又彼ノ新發明之事ドクトル江話し候處パテントニ者好手段有之よし申聞候夫より色々談ニ及びドクトルニも甚説アリ何れ拝眉萬々御話可仕候得共何ハ扱置其物を一見不致而者話ニ相成不申候隨分面白き事なれハ早々談緒を開き度事ニ御座候以上要用而已申上度早々頓首

二十一年二月一日

諭吉

中村様

(金田 倉吉)